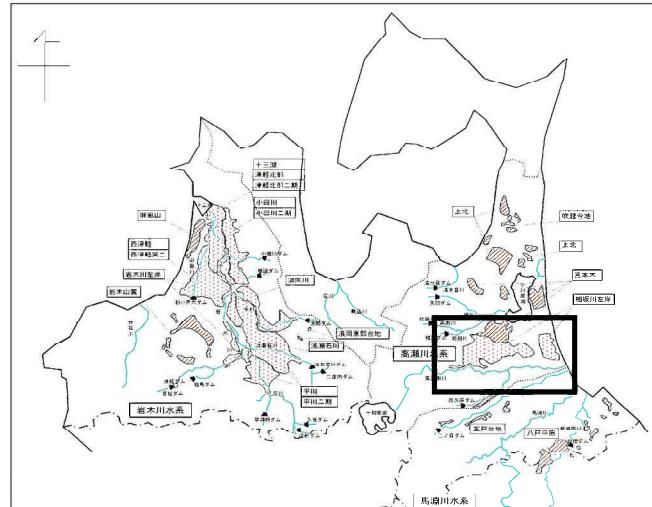


トピックス

～世界かんがい施設遺産「稻生川」～

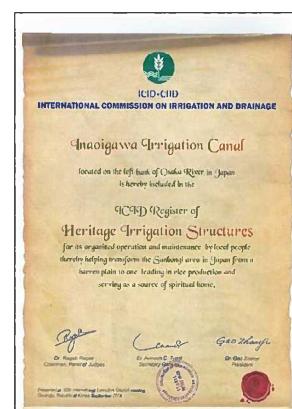
「世界かんがい施設遺産」制度は、国際かんがい排水委員会(ICID)が、文明の発展に貢献した歴史的かんがい施設を保全し、歴史から持続可能なかんがいを学ぶこと及びその存在を幅広く広報することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの等の基準を満たすかんがい施設を認定・登録するもので、2014年に創設されました。創設2年で登録施設は5か国25施設となり、うち日本からは13施設が認定されています。



▲位置図

国名	日本	中国	タイ	スリランカ	パキスタン	合計
登録数	13	7	2	2	1	25

稻生川は制度開始初年度の2014年に最初の登録施設のひとつとして認定されていますが、現在のところ、東北管内では唯一の登録施設となっています。登録についてはおよそ160年前の幕末期の稻生川開削において「南部土方衆」ら潜穴普請集団の持つ日本固有の高い技術で建設されている点や、開拓が多くの人々の尽力により国営事業へと引き継がれ、不毛の原野であった三本木原を青森県内有数の米どころとなるまで発展させた地域の宝として、今日でもなお活用されている点が高く評価されています。



▲写真は、農林水産省にて行われた登録証伝達式で ICID の佐藤洋平会長から登録証を伝達される
水土里ネット稻生川の山崎誠一副理事長と登録を記念して ICID より送られた登録証と盾

トピックス

【施設写真】



▲桜が咲き誇る三本木幹線用水路（稻生川）



▲稻生川に隣接して流れる地域用水



▲三本木幹線用水路（中里隧道）



▲三本木幹線用水路（小水力発電施設）

※参考 URL : 農林水産省 世界かんがい施設遺産

<http://www.maff.go.jp/nousin/kaigai/ICID/his/his.html>

全国水土里ネット 世界かんがい施設遺産

<http://www.inakajin.or.jp/jigyou/tabid/372/Default.aspx>

《 発信 : 水土里ネット稻生川 》

トピックス

に しょうない ～「二庄内ダムの安全性評価の結果について」～

1. 農業用ダム関係の技術検討会の概要

土地改良事業の基幹施設として建設された農業用ダムにおいては、供用開始後の時間経過とともに材料劣化の進行や地震による構造への影響等、性能の低下が懸念されており、供用中のダムにあっては将来に亘って安全性を確保していくため、適切なダム管理が求められています。

農林水産省では、研究機関、行政機関の緊密な連携の下に、農業用ダムに係る設計・施工・管理技術の向上を目的とした「農業用ダム関係の技術検討会」（以下、技術検討会という）を設置し、また、土地改良事業長期計画（平成24年3月30日閣議決定）に基づき、各ダムの安全性評価を実施しております。平成27年度においては、二庄内ダムの安全性評価（レベル2地震動における安全性の確保）を検討しましたので、その概要を報告します。

[技術検討会委員名簿]

役職	所属	氏名
委員長	東京大学 名誉教授	田中 忠次
委員	東京農工大学大学院 農学研究科 教授	向後 雄二
〃	関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 教授	小林 晃
〃	元農林水産省 地質官	高橋 複一
〃	農村工学研究所施設工学研究領域 上席研究員	田頭 秀和

[技術検討会日程]

第1回 平成27年8月20日 現地調査・技術検討会

第2回 平成28年2月29日 技術検討会



▲二庄内ダム



▲技術検討会の様子

2. 検討結果

今回検討したレベル2地震動（80gal以上の内陸型地震とプレート型地震を比較し最大震度を対象）において、二庄内ダムは耐震性能II（地震によりダムに構造的な損傷が生じた場合でも構造的な損傷が修復可能であり、ダムの貯水機能、放流機能が維持されること）を満足することを確認しました。

現在、安定状態にある二庄内ダムですが、今後、老朽化、地震等の非常事態により安全性が低下する可能性は有しているため、日常点検及び緊急時点検は非常に重要なものです。ダムの安全性確保に努めるためには、日々の継続監視が必要となっています。